

自己資本比率

2022年度の自己資本比率（全産業・全規模）は40.8%

※製造業（全規模）49.8%、非製造業（全規模）37.6%

（1）財務指標の説明

自己資本比率とは、総資本のうち純資産（新株予約権を除く）の占める割合を言い、企業の財務体質の健全性を図る尺度です。

自己資本比率が高い場合は、総資本の中の返済しなければならない負債（他人資本）によってまかなわれている部分が少なく、健全性が高いと言えます。

$$\text{自己資本比率(\%)}^* = \frac{(\text{純資産} - \text{新株予約権}^{***})}{\text{総資本}^{**}} \times 100$$

* 2006年度調査以前の定義は以下のとおり。

$$\text{自己資本比率(\%)} = \frac{\text{純資産}}{\text{総資本}} \times 100$$

** 総資本=流動負債+固定負債+特別法上の準備金+純資産

*** 新株予約権は、2007年度調査から調査を行っている。

貸借対照表

資産の部	負債の部
I 流動資産	I 流動負債
II 固定資産	II 固定負債
III 繰延資産	III 特別法上の準備金
	純資産の部
	I 株主資本
	II 評価・換算差額等
	III 新株予約権
資産合計	総資本（負債・純資産合計）

損益計算書

I 売上高
II 売上原価
売上総利益
III 販管費
営業利益
IV 営業外損益
経常利益
V 特別損益
税引前当期純利益
VI 法人税等
当期純利益

(2) グラフで見る最近の動き

2022年度は、製造業、非製造業とも純資産の対前年度増加率が総資本の増加率を上回ったことから、全産業で見た自己資本比率は前年度比で上昇しています。

